

反革命力クマルによる1・20京 大襲撃、福島慎一郎同志虐殺を 全身の怒りをこめて弾劾し、血 の徹底復讐リカクマル絶せん滅 を宣言する！

革命的共産主義者同盟 関西地方委員会
マルクス主義学生同盟・中核派
マルクス主義学生同盟・中核派 京都大学支部

(1)

京都大学の学友諸君！ すべての労働者、学生、人民諸君！
一月二十日、反革命力クマル、この憎みてあまりある日帝
・中曾根の手先、ファシストどもは、京大教養部において、
わが中核派のほゝる革命的京大生、全學連副委員長代行の福
島慎一郎同志を虐殺するという、絶対に許すことのできない
凶行をおかした。

わが革共同、中核派は満身に燃えたぎる憤怒と憎悪をもつ
て、の白色テロルを徹底弾劾し、血の復讐戦を徹底的に全面
的に貫徹することを宣言する。

(1)

反革命力クマルによる1・20白色テロル、福島同志虐殺
は、日帝・中曾根の手先となつて人民のたたかいを虐殺する
ために、革命派を卑劣な手段で目的意識的に虐殺するという、
まさに天人とも許さぬ反革命的、反人民的大罪である。

この日十時半、福島慎一郎同志は「吉田寮廢氣化攻撃粉碎

・闘う自治寮防衛！ 三里塚・国鉄決戦勝利、中曾根打倒！」
をかかげた一・三一教養部代議員大会・教養部ストライキの
実現のためにクラス討論にむかう途中、教養部A号館二階廊

下において、十一名のカクマルJAC（学生白色テロ部隊）
の卑劣な襲撃をうけ、鉄パイプによって後頭部を集中的に乱

打され、必死の反撃と生へのたたかいにもかかわらず、十一

時二十一分、無念にも絶命した。傷は後頭部のみであり、ま
さにJACは福島同志を殺すために襲いかかり、虐殺のため

の虐殺をはたらいたのだ。われわれの血は全身を逆流し、胸
ははりさけんばかりである。

ファシスト反革命力クマルは、昨秋三たびにわたるバリケ

ード・ストライキをもつて十・21〇と十一・21八・2九の蜂
起戦に決起した戦闘的京大学生運動が、一・三一代議員大会
に全学生的規模の実力決起を実現することを恐れて一・2〇
白色テロルを凶行したのだ。

昨秋蜂起戦の大爆発によつて、とりわけ動労カクマル松崎
の反労働者的、反革命的裏切りの暴露と学生戦線＝JACの
崩壊的危機によつて致命的打撃をうけたカクマルは、より一
層日帝・中曾根のファシスト的先兵として生きのびるために、
中核派にたいする絶望的白色テロルにのめりこんだのだ。
これが許せるか！

(1)

われわれは虐殺者＝反革命力クマルを絶対に容赦しない。

福島同志を目的意識的に虐殺した白色テロ下手人＝カクマ
ルJAC一人はどんなことがあつても必ず摘発して全員処
刑する。

JAC分子を一人残らず総せん滅し、ファシスト反革命力
クマルを全員せん滅する。

カクマルよ、お前たちは一・21〇によつてお前たちの、と

りわけ関西カクマルの墓穴を掘つたのだ。われわれの怒りが、

憎しみがどれだけ激しいか、戦慄して待つがよい。

関西カクマルの運命は100%決つた。われわれはJACとい
わず産別といわず、中枢といわず、一人残らずファシスト反
革命分子は総せん滅することを固く誓い、必ず実行する。

西から吹きあげよ。

(四)

われわれはすべての京大生諸君、すべての労働者学生人民諸君に、同志福島の革命的たたかいをつけつぎ、京大学生運動の革命的爆発を必ずや実現することを誓う。

虐殺彈劾＝復讐戦鬪徹の声を全京大生のものとし、京大をファシスト反革命力クマルの警察＝カクマル連合的白色襲撃から守りぬき、中曾根打倒、松崎処刑＝カクマルせん滅の最大の戦場として、八六年決戦の大爆発を切りひらく。

吉田寮決戦の大爆発、一・三一代議員大会－Cストライキを戦取し、「中曾根打倒、三里塚・国鉄決戦勝利、カクマルせん滅」をたたかう革命的学生運動を京大において圧倒的に強力につくりだす。

(五)

さらにわれわれは、福島同志とすべての人民にたいして、福島同志虐殺への血の報復戦の爆発と京大、大阪市大を先頭とする学生運動の爆発のなかから、日帝・中曾根を打倒する八六年決戦の大勝利を必ずや切りひらくことを固く誓う。

三里塚二期着工阻止、成田用水粉碎、動労千葉スト不当処分粉碎・第二波スト支援、国鉄「分割・民営化」阻止、松崎処刑・カクマルせん滅、関西新空港粉碎の一・三月蜂起戦にかちぬき、東京サミット・天皇在位六十年式典爆碎の四・五月蜂起戦を日本階級闘争史上最大・最高の蜂起戦としてすさまじい大爆発をなんとしても実現するのだ。

これこそ、福島同志の革命的精神に眞にこたえる道にほかならない。

(六)

福島慎一郎同志よ！ 君が待ちに待った革命的激動の時代、人民の武装闘争が勝利する時代の本格的入口にあつて、また君自身がそのたたかいの先頭にたつ革命的指導者としてめざましい飛躍をかちとるべきまさに歴史的な時期に、志なればにして非業の死をとげねばならなかつた怒り、口惜しさはいかばかりだつたろう。

虐殺者を八つ裂きにしても、なおの憤怒をしずめる」とはできない。

一九六〇年安保闘争の年の十月八日に生をうけた福島同志は、七九年京都大学教育学部に入學し、八一年第三一期の熊野寮自治会委員長となり、三里塚をたたかう戦闘的京大学生運動の中軸的担い手となつた。

そして八一年四月、革命家としての人生を決意してマル学同・中核派に加盟して以来、中核派が八四年四月をもつて教養部制圧－京大学生運動の主流派的飛躍を実現したたかいの最先頭には、つねに福島同志の姿があつた。権力や反革命にたいしては徹底的に非妥協で厳しく、学生大衆と同志にいたしては真底から誠実でやさしかつた福島同志は、まさに八十年代の京大学生運動が生みだした、かけがえのないすばらしい活動家であり指導者であつた。

そして、昨年十、十一月蜂起戦の先頭にたつた福島同志は、

山口幸一全学連副委員長が十・一〇蜂起戦を指導して逮捕されたあとをうけて、今年一月六日の中央委員会において全学連副委員長代行に選出されたのである。掛け値なしに、福島同志の真に輝かしい時代がこれからはじまるうとしていたのだ。

彼の豊かにひらかれた可能性を思うとき、われわれはまさに断腸の思いというしかない。

だがしかし、福島同志こそ山崎博昭、辻敏明両同志のたたかいをうけついで、中核派京大支部に結集した内乱期の革命家であり、権力のピストル発射をものともせずせん滅戦をたたかいぬいた「十・一〇」「十一・二八一二九」世代のもつともよき戦士であつた。福島同志が革命と人民のためにおそれずみずから生命をかけたことに毛一筋の疑いもありえない。

福島同志は、まさに死をかけたたたかいをもつて、われわれに内乱・内戦・蜂起の時代の勝利の道を赤々とさししめしているのだ。

反革命カクマルに血の復讐を！

ファシスト・カクマルの血の量こそ、革命の勝利をさし示す。先制的内戦戦略の旗を高くかかげ、日本革命－世界革命の勝利をきりひらけ！

日帝・中曾根と反革命カクマルを串さしにしてうちたおす、猛然たる武装闘争、赤色テロル戦をたたきつけよ！

福島同志！ 最後の勝利まで、わが戦列に永遠なれ！